高千穂町遺跡詳細
分布調査報告書

（三田井・押方・向山地区）

1983

宮崎県西臼杵郡高千穂町教育委員会

正　誤　表

頁	行	誤	正
本文			
3	8	川登ヨガ	川登コガ
3	9	五ケ村仮屋	五ケ村板屋
3	14	仮屋	板屋
15	1	(1065)	(1064)
15	457	(1065)	(1064)
1		尾~~脩~~谷 (1063)	尾俗 (1062)
1		堂ノ元 (1056)	堂ノ元 (1058)
1		大野原 (1055)	大 野原 (1054)
1		長迫 (1062)	長迫 (1061)
1		栃又第二 (1069)	栃又第二 (1068)
1		北平 (2055)	北平 (2005)
1		宮ノ前第ノ (1047)	宮ノ前第ノ (1046)
4		尾久保 (1065)	尾久保 (1064)
11		7 上原平遺跡 (1035)	7 ・西原遺跡 (1053)
14		8 西原遺跡 (1053)	8 ・町　内

序

日本全国の遺跡は，約30万ヶ所ともいわれています。

最近，よく新聞等で遺跡の発掘に関するニュースが報じられていますが，こうした報道の対象になる発掘の大部分が，開発事業による破壊を前提とした緊急調査であり，年々数千にのぼる遺跡が失われていくことを思うと，改めて埋蔵文化財の保護の必要性を感じます。

当町は，県指定史跡「陣内遺跡」をはじめ，縄文・弥生遺跡及び古墳等が数多く散在し，これらの遺跡分布調査は文化財の保護の上から，緊急を要する事業でありました。

この度，文化庁及び宮崎県教育委員会の御指導により，現在計画されております国道218号高千穂道路建設工事の路線周辺を中心に，遺跡の分布調査を実施いたしましたところ，数多くの遺跡や遺物を発見するなど，遺跡の分布状況を確認することができました。

ここに，調査の実施にあたり，調査員各位をはじめ，町民の皆様方の御理解と御協力に対し，深甚の謝意を表します。

尚，この報告書が本町の歴史の解明のための一資料として活用していただくとともに，関係各位には年々失なわれていきます埋蔵文化財について十分認識していただき，文化財保護行政推進のための一助となることを期待いたします。

昭和58年3月

高千穂町教育委員会

教育長　後藤辰男

例　　言

1. 本書は，高千穂町教育委員会が昭和57年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査の報告書です。
2. 本調査は，埋蔵文化財に関する調査であり，内容はバイパス路線周辺地区にあたる**大字 三田井・押方・向山地区** 内の埋蔵文化財包蔵地調査カード及び遺跡分布地図の作成で，原簿は高千穂町教育委員会に保管されています。
3. 本書の構成は，埋蔵文化財包蔵地地名表・主要遺跡概説・附図の遺跡分布地図から成り，さらに総説の項を設け，地理的環境，歴史的環境を述べ，理解の一助としました。
4. 本書に掲載された埋蔵文化財は，すべて文化財保護法にいう「**周知の埋蔵文化財包蔵地**」です。
5. 「**周知の埋蔵文化財包蔵地**」において，土木工事等を実施しようとする場合には，工事着手の2ヶ月以前に文化庁長官に届け出ることが文化財保護法により義務づけられていますので，「周知の埋蔵文化財包蔵地」およびこれに隣接する地域において土木工事等を実施しようとする場合は，計画段階において **高千穂町教育委員会**および**県教育委員会文化課**に連絡し，文化財保護法による協議をされたい。

   また，国および地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には，土木工事等の通知書を提出することが必要です。

   なお，埋蔵文化財は，その性質上未発見のまま地中に包蔵されている場合があり，工事等により当該文化財が発見された場合にも前記と同様，**高千穂町教育委員会**および **県教育委員会文化課**に連絡してください。
6. 本書および，埋蔵文化財に関するお問い合せは，**高千穂町教育委員会（高千穂町大字三田井13番 TEL 09827—2—3181）**および**県教育委員会文化課（宮崎市橘通東1丁目9番10号 TEL 0985—24—1111）**へお願いいたします。
7. 本書に掲載した地図は，建設省国土地理院長の承認を得て，同院発行の 25,000分の1地形図を複製したものである。（承認番号）昭和47年国地発第12326号

凡　　例

1. 埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）は，地図上に赤色で示した。古墳の場合には一基づつは緑色の・で示し，古墳群の場合にはこの範囲を緑色の ⬭ で示した。また古墳以外の遺跡は範囲の確認，推定できるものは赤色の ⬭ で示した。
2. 地図の「遺跡番号」は，すべて地名表のそれと一致する。
3. 「遺跡番号」は，集落跡・散布地・城跡等は一番号とし，古墳群・窯跡群については群に対し一番号を付した。
4. 各遺跡を大字で分け，1,000番台は三田井地区，2,000番台は押方地区，3,000番台は向山地区とした。
5. すでに消滅した遺跡でもその地点，範囲等が明確にできるものについては，これを記載した。
6. 遺跡名は，小字名にしたがい，一部については通称・俗称によった。
7. 遺跡の所在地は，大字名，小字名で示した。地番については，高千穂町教育委員会および県教育委員会文化課へ問い合わせられたい。
8. 調査の組織

調査主体	高千穂町教育委員会	
	教育長	後藤辰男
	教育次長	飯干　昇
	社会教育課長	久義道雄
	〃　主査	田崎雍彦
	〃　主任主事	田尻隆介（担当）
調査員	石川恒太郎	宮崎県文化財保護審議会委員
	青山尚友	宮崎県立高千穂高等学校教諭
調査補助員	鈴木由春	高千穂町文化財保存調査委員
	佐藤久四	
	高橋加奈子	

調査指導　長津宗重　県文化課主事
日高孝治　〃

9．現地における踏査は，鈴木，佐藤，田尻が行なった。

10．踏査にあたっては，「宮崎県遺跡台帳」等を基礎としたが，宮崎県文化財保護審議会委員および高千穂町文化財保存調査委員など地元研究者の長年の調査研究によるものが大であった。

11．本書の執筆は，総括を石川恒太郎氏が行ない，「高千穂町の地質と地形」を青山尚友氏に，その他については鈴木，佐藤，田尻，長津があたり，実測・トレース等については長津，日高，高橋が分担して行なった。

総　目　次

Ⅰ　総　説

1．高千穂町の地質と地形……1

2．高千穂町の歴史的環境……3

Ⅱ　埋蔵文化財包蔵地地名表……7

Ⅲ　主要遺跡概説……13

Ⅳ　高千穂町関連文献目録……16

附図　高千穂町遺跡分布地図

挿　図　目　次

第1図　三田井付近における地質柱状図……1

第2図　三田井付近の地質図……2

図　版　目　次

図版 1．縄文土器（Ⅰ）

陣内第2，宮ノ前第1，大野原，長迫，堂ノ元，

尾谷，栃又第2，東平，北平，上押方第2，岩上遺跡

図版 2．縄文土器（Ⅱ）

東平遺跡

図版 3．陣内遺跡出土縄文土器

図版 4．打製石鏃・磨製石鏃・弥生土器

田口野第1，上原平，塩市，大野原，尾久保遺跡

図版 5．一本木横穴出土遺物（Ⅰ）

図版 6．一本木横穴出土遺物（Ⅱ）

図版　7．　高千穂町内横穴集成図

一本木，吾平原，南平，田原染野平，田原河内横穴

図版　8．　打製石器・縄文土器

セベット，上原平，梅ノ木谷，柳原，稗ノ上遺跡

図版　9．　陣内遺跡出土遺物

図版 10．　陣内第２遺跡出土遺物

図版 11．　磨製石器・弥生土器

田口野第１，上原平，狭山，西原，上原遺跡，町内出土

Ⅰ 総　　説

1.　高千穂町の地質と地形

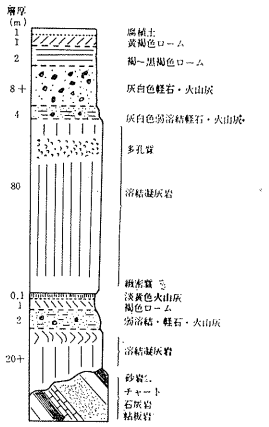
2.　高千穂町の歴史的環境

1. 高千穂町の地質と地形

高千穂町は，祖母山の南側に位置し，急峻な山地と台地状の地形からなる。山地は，秩父帯・中世界・祖母山火山岩類から構成されている。秩父帯は，二畳～三畳系のチャート砂岩粘板岩・石灰岩・玄武岩溶石などからなり，帯状構造を呈する。地層の一般走向は，北東―南西方向を示し，北西へ傾斜している。秩父帯の山地は，五ケ瀬川及びその支流によって開析され，山陵は走向方向に連なっている。跡取川や岩戸川は，この方向に流下する河川である。山地浸食の結果，V字谷は標高600m以上で形成されている。一方，低山地では，岩質を反映した特徴的地形が見られる。すなわち，チャート層は山頂部に尖峰となって残り，砂岩・粘板岩層は浸食されて緩斜面を形成している。また，石灰岩層は随所で急崖をなし，小規模な鐘乳洞が発達している。

秩父帯の中世界は，高千穂町から五ケ瀬町にかけての山地や岩戸・田原付近に分布する。岩相は主に礫岩・砂岩・頁岩からなる。秩父帯や中生界には，花崗岩や花崗斑岩の貫入岩体がある。これらは，帯状構造を横切るように貫入し，突出した地形を形成している。また，秩父帯北部の大分県境付近には，祖母山火山岩類が分布し，秩父帯を覆っている。岩質は，輝石安山岩質溶岩及び火砕岩とディサイト質溶岩及び火砕岩からなる。

台地状の平坦地形は，五ケ瀬川とその支流に沿って分布する。これは，阿蘇火砕流が更新世に噴出し，西臼杵地方の旧河谷を埋積したため生じた平坦地形である。阿蘇火砕流は，はじめ溶結凝灰岩を大量に噴出して，五ケ瀬川とその支流の谷底を埋め，次いでガラス質の火山灰や軽石を厚く堆積した。これによって，平衡状態にあった河川は回春し，厚い溶結凝灰岩層を浸食して回廊状の深い峡谷を形成するに至った。このような浸食の結果，峡谷の両側には，台地状の平坦部が残されたと考えられる。



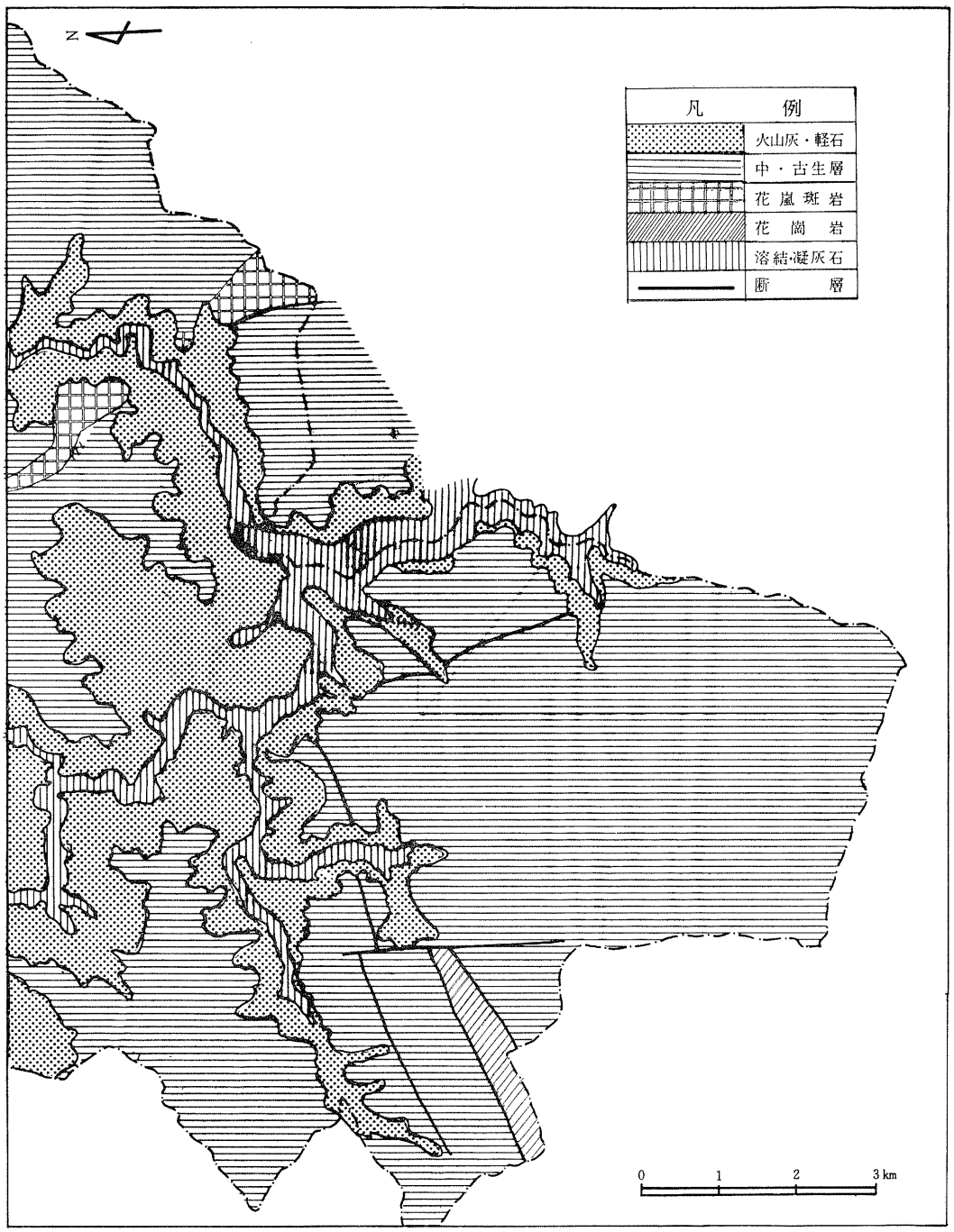
第1図　三田井付近における地質柱状図

三田井付近における地質柱状図は第1図に，地質の概略は第2図に示した。本地域においては，溶結凝灰岩層は平均して標高300mの高さに分布するが，一部ではこの高さ以上にせり上っている。溶結凝灰岩層はAso―3・Aso―4と呼ばれる火砕流に属するが，主にAso―4火砕流が広く分布している。Aso―4火砕流は，下半部の溶結凝灰岩と上半部の非溶結部からなる。Aso―4の溶結凝灰岩は，最下部では黒色を呈し緻密質になっているが，上部になるに従い灰色となり柱状節理が発達する。岩質は安山岩質で，ガラス質基質の中に斜長石の斑晶を含み，軽石・火山レキ・基盤の岩石片・黒色ガラス質偏平レンズなどが縞状構造をつくっている。さらに上部になると，一部は多孔質になり，不規則節理が発達する。非溶結部は，ガラス質細粒火山灰の基質に石質破片や軽石を含んでいる。

軽石堆積物は，灰白色の軽石と火山灰からなり，数mの厚さに堆積している。軽石の多くは直径5～10cmであるが，直径50cmに達するものも混在し，層理は示さない。軽石堆積物の上は，褐～黒褐色

ロームと黄褐色ローム及び腐植土が覆っており，この地方の農耕地として利用されている。

（青山　尚友）



第２図　　三田井付近の地質図

2. 高千穂町の歴史的環境

高千穂町は九州のほぼ中央部，宮崎県の最北西端に位置し，九州の屋根と言われる九州山地の中にあって，巨大な盆地を形成している。盆地内には本流をなす五ケ瀬川の小支流によって開析された谷間が多くの起伏をつくるとともに，川を挾んだ台地は，ほぼ同じような等高線を示しており，遺跡は，標高300～400mの五ケ瀬川を臨む南側の斜面に多く立地する。

旧石器時代の遺物・遺跡は確認されていないが，隣の日之影町で昭和40・41年に出羽洞穴が発掘調査されて尖頭器・削器・石核・ナイフ形石器等が出土しているので，[1] 当地においても将来確認されると思われる。

縄文時代の遺跡としては陣内遺跡が代表的である。早期の遺跡としては，三田井地区の川登ヨガ堂・小河内・陣内車迫・上原平，押方地区の五ケ村仮屋・下押方，岩戸地区の五ケ村，田原地区の河内西，北萱場地区の薄糸平・小川内が知られていた。[2] 今回の調査によって三田井地区の尾谷遺跡（田村式），押方地区の東平遺跡（楕円押型文，山形押型文，田村式）・岩上遺跡（楕円押型文）が確認された。前期の土器は陣内遺跡で出土しているが，[3] 中期の土器は確認されていない。後・晩期になると三田井地区の浅ケ部・陣内ダチミ・陣内車迫・御塩井・高千穂高校・高千穂小学校，押方地区の五ケ村仮屋・下押方など遺跡数が増大する。[4] その代表的な陣内遺跡は，昭和31年7月に神道文化会の調査，[5] 昭和35年9月に県教育委員会，[6] 昭和55年2月に町教育委員会により発掘調査が行なわれた。乙益重隆氏は後・晩期の土器を六類に，[7] 鈴木重治氏は早期から晩期の土器を十類に分類された。[8] 遺物としては，土偶・石棒・石刀・石鏃等が出土しており，特に土偶・石棒は県内では唯一の例である。石刀は西都市[9]や学園都市10号地[10]でも出土している。陣内遺跡は住居跡等の生活遺構は確認されていないので土器溜りと考えられ，住居跡は上の台地の陣内第2遺跡に存在する可能性が大である。遺跡の分布の中心は三田井，押方，尾谷地区であり，立地の良い所にはすべて遺跡が形成されているが，住居跡は確認されていない。

弥生時代の前期の遺跡は確認されていない。[11] 中期になると遺跡数が増え，逆L字状口縁の丹塗磨研の須玖式の甕を出土した上押方第3遺跡（C地点），[12] 昭和52年発掘調査が行なわれ下城式・須玖式を出土した薄糸平遺跡[13]などがある。今回の調査において中期の良好な資料を得ることはできなかった。後期の遺跡で唯一発掘調査された薄糸平遺跡[14]では，ミミズバレ状の突帯を工字に配する甕形土器・免田式の壺などが出土したが，住居跡等の生活遺構は確認されていない。免田式は柚木野[15]でも出土しており，その他にも県内では須木・細野・永田平・灰塚・黒迫・加納・六野原で出土している。[16] 方形石庖丁・無茎磨製石鏃・打製石鍬という石器のセット[17]及びミミズバレ状の突帯を工字に配する甕形土器が五ケ瀬川上流から大野川上・中流域という九州山岳地帯に分布することから畑作が想定されている。[18] また明治初年における当地域の水田と畑の割合が1対6[19]ということを鑑みても，畑作（焼畑を含めて）がかなりの比重を占めていたことは首肯されよう。

古墳時代の遺跡としては，集落跡は確認されていないが，前方後円墳2基，円墳24基，横穴89基確認されている。[20] 横穴群としては，三田井地区の吾平原・塩市・成木・池ノ川・吾平・車迫，押方地区の押方・辻平がある。横穴は，玄室内に屍床を有し石枕を造り出すAタイプ（所謂「肥後型」）と，方形プラン・ドーム形で屍床を有しないBタイプに分かれる。Aタイプ・Bタイプとも石蓋である。A

タイプは，今狩[21]・河内[22]・一本木[23]・吾平原[24]・北平[25]・南平55—1・2号[26]であり，Bタイプは染野平[27]である。南平55—1号の小田富士雄氏編年[28]の第ⅢB期の須恵器，一本木横穴の鐘形杏葉よりAタイプは6世紀後半の時期が比定される。[29] 箱式石棺の調査例としては，丸山石棺群[30]があり，3基調査されて直弧文を施した鹿角製刀装具が出土しているが，時期的には不明である。前方後円墳・円墳の内容が不明なので，当地域の古墳時代社会の具体像を描写できるまでには至っていない。

当地域は既に指摘されている[31]ように，地形に根差す閉鎖的な社会ではなく，各時代ごとに近隣地域との交流を行なっている。しかし，縄文時代における中期，弥生時代における前期，古墳時代における前・中期というように各時代に「空白期」を有しており，これが地域本来的なあり方なのか，或いは，研究上の一段階なのかは今後の課題である。

歴史時代については，明治32年に押方二上峰頂上で，三角点設置の際に嘉承2年（1107年）の経筒と鏡が発見されたことが，「高千穂特別記録文献資料」に記載されているが，現物の所在が判明していないため確認することはできない。奈良・平安時代の高千穂は天孫降臨の高千穂二上峰を「日向国風土記逸文」に「日向国臼杵郡内知鋪郷」とする説が掲げてあり，「倭名類聚抄」には臼杵郡に氷上・智保・英多・刈田の四郡が存在していたことが明記されている。智保郷は鎌倉時代以降，高知尾庄として18ヶ村を有し，近世に至っている。

高千穂氏の館跡，城跡及び寺跡等の関連遺跡については，古文書等による文献・伝承により所在を知ることはできるが，今後の発掘調査等により追求される必要がある。

（田尻 隆介・長津 宗重）

註

(1) 鈴木重治 「宮崎県見立出羽洞窟」（『日本の洞窟遺跡』）昭和45年
(2) 鈴木重治・賀川光夫 「陣内遺跡」（『日向遺跡総合調査報告』第二輯）昭和37年
(3) (2)に同じ
(4) (2)に同じ
(5) 乙益重隆 「高千穂の先史文化」（『高千穂・阿蘇』）昭和35年
(6) (2)に同じ
(7) (5)に同じ
(8) (2)に同じ
(9) 小田富士雄 「宮崎県西都原附近発見の石刀」（『九州考古学』15）昭和37年
(10) 昭和58年2月，後・晩期の土器に伴なってブーメラン型の石刀が出ている。
(11) 「宮崎県西臼杵郡高千穂町押方神社周辺の遺跡」（『九州考古学』45）昭和47年で指摘された陣内出土の板付Ⅱ式の土器については，沢皇臣自身が撤回された。
(12) 沢皇臣 「宮崎県西臼杵郡高千穂町押方神社周辺の遺跡」（『九州考古学』45）昭和47年
(13) 高千穂町教育委員会 「薄糸平遺跡」昭和53年
(14) (13)に同じ
(15) (5)・(13)に同じ
(16) 山中悦雄 「県内出土〝免田式〟重弧文長頸壺集成(1)」（昭和57年7月31日研究会資料）
昭和57年度宮崎市教育委員会が発掘調査を行った中岡遺跡でも出土している。
(17) 下條信行 「九州における大陸系磨製石器の生成と展開」（『史淵』114）昭和52年
(18) 大野町教育委員会 「大野原台地の遺跡」Ⅱ 昭和52年
(19) 平部嶠南 「日向地誌」昭和4年
(20) 高千穂町教育委員会 「高千穂古墳管理台帳」昭和55年

(21) 沢武人　「高千穂町上田原横穴古墳調査報告」昭和44年
(22) 吉田章一郎「高千穂の原史文化」（『高千穂・阿蘇』）昭和35年
(23) 柳宏吉「横穴古墳」（『宮崎県文化財調査報告書』第3輯）昭和33年
(24) 石川恒太郎「高千穂町吾平原横穴古墳調査報告」（『宮崎県文化財調査報告書』第14集）昭和44年
(25) (23)に同じ
(26) 北郷泰道・田尻隆介　「南平横穴群発掘調査」（『宮崎県文化財調査報告書』第23集）昭和56年
(27) 石川恒太郎　「高千穂町田原字染野平横穴古墳調査報告」（『宮崎県文化財調査報告書』第16集）昭和47年
(28) 小田富士雄　「九州の須恵器序説」（『九州考古学』22）昭和39年
八女市教育委員会「八女古窯跡群調査報告」Ⅰ～Ⅳ　昭和44年～46年
(29) 南平55―1号前庭部出土の無蓋高坏の口縁部片から6世紀前半に遡る可能性がある。
(30) 石川恒太郎「西臼杵郡高千穂町奥鶴の箱式石棺調査報告」（『宮崎県文化財調査報告書』第16集）昭和47年
石川恒太郎・内藤芳篤　「丸山石棺群発掘調査」（『宮崎県文化財発掘調査報告書』第21集）昭和54年
(31) (5)・(11)に同じ

Ⅱ 埋蔵文化財包蔵地地名表

三田井地区　　1001～

押方地区　　2001～

向山地区　　3001～

1．番号は地図の番号と一致している。

2．旧番号のうち「台帳」は昭和38・49・52年度に作成した「宮崎県遺跡台帳」の遺跡番号，「地図」は昭和51年度刊行の「全国遺跡地図―宮崎県―」の遺跡番号である。

三田井地区　1001～1072

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
1001	高千穂(たかちほ)1号墳	大字三田井字御塩井	古墳(円)	古墳時代			6.7.16.22.31.35	
1002	高千穂5号墳	大字三田井字寺迫	古墳(円)	古墳時代			6.7.16.22.31.35	
1003	高千穂31号墳	大字三田井字吾平原	横穴	古墳時代			6.7.16.22.31.33.35	
1004	吾平原横穴群	大字三田井字吾平原	横穴	古墳時代		2—17	6.7.16.21.22.31.33.35	

（号　数）

26・27	大字三田井字吾平原	横穴 2	消滅
28	大字三田井字吾平原	横穴 1	消滅
29・30	大字三田井字吾平原	横穴 2	消滅
一本木	大字三田井字吾平原	横穴 1	9　消滅
32～40	大字三田井字吾平原	横穴 9	消滅
41	大字三田井字吾平原	横穴 1	消滅

1005	高千穂(たかちほ)45号墳	大字三田井字尾迫原	古墳(前方後円)	古墳時代			6.7.9.16.22.31.35	
1006	高千穂9号墳	大字三田井字栗毛	古墳(円)	古墳時代			6.7.9.16.22.31.35	
1007	高千穂10号墳	大字三田井字栗毛	古墳(円)	古墳時代			6.7.9.16.22.31.35	
1008	高千穂6号墳	大字三田井字宮ノ前	古墳(円)	古墳時代		2—12	6.7.9.16.22.31.35	
1009	塩市(しおいち)横穴群	大字三田井字塩市	横穴	古墳時代		2—10	6.7.9.16.22.31.33.35	

（号　数）

7	大字三田井字塩市	横穴 1	
8	大字三田井字塩市	横穴 1	消滅

1010	成木(なりき)横穴群	大字三田井字成木	横穴	古墳時代			6.7.9.16.22.31.33.35	

（号　数）

22・23	大字三田井字成木	横穴 2	消滅
24	大字三田井字成木	横穴 1	消滅
20・21	大字三田井字池ノ川	横穴 2	消滅

1011	池ノ川(いけのかわ)横穴群	大字三田井字池ノ川	横穴	古墳時代			6.7.9.16.22.31.33.35	

（号　数）

17	大字三田井字池ノ川	横穴 1	消滅
18	大字三田井字池ノ川	横穴 1	
19	大字三田井字池ノ川	横穴 1	

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
1012	吾平(あいら)古墳群	大字三田井字吾平	古墳	古墳時代		2—16	6.7.9.16.22.31.33.35	

（号　数）

11・12	大字三田井字吾平	前方後円墳	吾平山陵
13	大字三田井字吾平	横穴 1	不明
14	大字三田井字吾平	横穴 1	
15	大字三田井字吾平	円墳 1	

1013	車迫(くるまざこ)横穴群	大字三田井字車迫	横穴	古墳時代			6.7.9.16.22.31.33.35	

（号　数）

46・47	大字三田井字車迫	横穴 2	消滅
25	大字三田井字吾平原	横穴 1	消滅
42	大字三田井字吾平原	横穴 1	
43	大字三田井字吾平原	横穴 1	消滅
44	大字三田井字吾平原	横穴 1	

1014	高千穂(たかちほ)48号墳	大字三田井字尾谷	古墳(円)	古墳時代			6.7.9.16.22.31.35	崩壊
1015	高千穂55号墳	大字三田井字桑水流	横穴	古墳時代			6.7.9.16.22.31	
1016	高千穂3号墳	大字三田井字栃又	横穴	古墳時代			6.7.9.16.22.31.33.35	
1017	高千穂4号墳	大字三田井字栃又	古墳(円)	古墳時代	1015		6.7.9.16.22.31.35	
1018	高千穂16号墳	大字三田井字長崎	古墳(円)	古墳時代			6.7.9.16.22.31.35	
1019	高千穂2号墳	大字三田井字上原	古墳（円）	古墳時代			6.7.9.16.22.31.35	
1020	高千穂(たかちほ)小学校遺跡	大字三田井字尾迫原	散布地	縄文～弥生時代			8.13.16.21.22	
1021	狭山(さやま)遺跡	大字三田井字狭山	散布地	弥生時代				
1022	松能橋(まつのばし)遺跡	大字三田井字狭山	散布地	縄文～弥生時代		2—32		
1023	高千穂(たかちほ)高校遺跡	大字三田井字神殿	散布地	縄文～弥生時代		2—28	2.8.13.16.21.22	
1024	セベット遺跡	大字三田井字御塩井	散布地	縄文～弥生時代		2—29	8.13.16.21.22	
1025	淡路(あわじ)城跡	大字三田井字神殿 城ノ平	城跡	中世			22	
1026	田口野(たぐちの)第1遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代		2—30	21	
1027	田口野第2遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代				
1028	田口野第3遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代				

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
1029	荒立(あらたて)神社前遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1030	宮尾野(みやおの)第1遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1031	宮尾野第2遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1032	宮尾野第3遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1033	吾平原(あいらばる)第1遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文～弥生時代			21	
1034	吾平原第2遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文時代				
1035	上原平(うえばるだいら)遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文～弥生時代		2—15	2.8.15.16.22	
1036	尾迫原(おさこばる)遺跡	大字三田井字尾迫原	散布地	縄文～弥生時代				
1037	陣内(じんない)遺跡	大字三田井字車ノ迫	散布地	縄文～弥生時代		2—14	2.8.10.11.13.14.16.21.22.34	
1038	陣内第2遺跡	大字三田井字車ノ迫	散布地	縄文～弥生時代	650	2—11	2.8.10.22.34	
1039	田向(たむかい)遺跡	大字三田井字吾平	散布地	縄文～弥生時代		2—13	2.8.21.22	
1040	春芽(はるめ)遺跡	大字三田井字春芽	散布地	縄文～弥生時代				
1041	上阿床(かみあとと)遺跡	大字三田井字上阿床	散布地	縄文時代				
1042	下阿床(しもあとと)遺跡	大字三田井字下阿床	散布地	縄文～弥生時代				
1043	塩市(しおいち)遺跡	大字三田井字塩市	散布地	縄文時代				
1044	池ノ川(いけのかわ)遺跡	大字三田井字池ノ川	散布地	縄文～弥生時代				
1045	梅ノ木谷(うめのきだに)遺跡	大字三田井字梅ノ木谷	散布地	縄文時代				
1046	宮ノ前(みやのまえ)第1遺跡	大字三田井字宮ノ前	散布地	縄文～弥生時代				
1047	宮ノ前第2遺跡	大字三田井字宮ノ前	散布地	縄文～弥生時代				
1048	柿ノ木水流(かきのきづる)遺跡	大字三田井字柿ノ木水流	散布地	縄文時代				
1049	長畑(ながはた)第1遺跡	大字三田井字長畑	散布地	縄文時代	1014		15.34	
1050	長畑第2遺跡	大字三田井字長畑	散布地	縄文時代				
1051	堂山(どうやま)遺跡	大字三田井字堂山	散布地	古墳時代				
1052	梅木(うめぎ)遺跡	大字三田井字梅木	散布地	縄文時代	1118		8.16.22.34	
1053	西原(にしばる)遺跡	大字三田井字西原	散布地	縄文～弥生時代				
1054	大野原(おのばる)遺跡	大字三田井字大野原	散布地	縄文時代			2	
1055	古城(ふるしろ)遺跡	大字三田井字古城	散布地	縄文～弥生時代			2.8.22	
1056	亀山(かめやま)城跡	大字三田井字古城	城跡	中世	1016		8.22.34	
1057	弥宜ノ地(ねぎのじ)遺跡	大字岩戸字弥宜ノ地	散布地	縄文時代				
1058	堂ノ元(どうのもと)遺跡	大字三田井字陣内	散布地	縄文～弥生時代				
1059	今村(いまむら)遺跡	大字三田井字今村	散布地	縄文～古墳時代				
1060	松ノ原(まつのはる)遺跡	大字三田井字松ノ原	散布地	縄文時代				

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
1061	長迫遺跡（ながさと）	大字三田井字長迫	散布地	縄文時代				
1062	尾谷遺跡（おたに）	大字三田井字尾谷	散布地	縄文時代				
1063	梅ノ木原遺跡（うめのきばる）	大字三田井字梅ノ木原	散布地	縄文時代			2.8.22	
1064	尾久保第1遺跡（おくぼ）	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代			8.22	
1065	尾久保第2遺跡	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代				
1066	桑水流遺跡（くわづる）	大字三田井字桑水流	散布地	弥生時代				
1067	栃又第1遺跡（とちまた）	大字三田井字栃又	散布地	縄文～弥生時代				
1068	栃又第2遺跡	大字三田井字栃又	散布地	縄文時代				
1069	馬門遺跡（まかど）	大字三田井字馬門	散布地	縄文～弥生時代				
1070	長崎第1遺跡（ながさき）	大字三田井字長崎	散布地	縄文～古墳時代			8	
1071	長崎第2遺跡	大字三田井字長崎	散布地	縄文～弥生時代			8	
1072	上原遺跡（うえばる）	大字三田井字上原	散布地	弥生時代		2—33	8.10.16.21.22	

押方地区　2001～2019

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
2001	押方横穴群（おしかた）	大字押方字南平	横穴	古墳時代		2—26	6.7.9.16.21.22.31.33.35	

（号　数）

52・53	大字押方字南平	横穴 2		消滅
58	大字押方字南平	横穴 1	29	
51	大字押方字北平	横穴 1		消滅
56・57	大字押方字北平	横穴 2		

2002	辻平横穴群（つじびら）	大字押方字辻平	横穴	古墳時代			6.7.9.16.22.31	

（号　数）

49・50	大字押方字辻平	横穴 2	消滅

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
2003	窓の瀬上遺跡（まどのせうえ）	大字押方字東平	散布地	弥生時代			21	
2004	東平遺跡（ひがしびら）	大字押方字東平	散布地	縄文～古墳時代		2—27		
2005	北平遺跡（きたびら）	大字押方字北平	散布地	縄文～古墳時代				
2006	南平第1遺跡（みなみびら）	大字押方字南平	散布地	縄文～古墳時代				
2007	南平第2遺跡	大字押方字南平	散布地	縄文～弥生時代		2—25	21	
2008	上押方本組遺跡（かみおしかたもとぐみ）	大字押方字辻平	散布地	縄文～古墳時代	653		8.13.16.21.22	
2009	尾崎遺跡（おざき）	大字押方字尾崎・北平	散布地	縄文～弥生時代				
2010	宮野原遺跡（みやのはる）	大字押方字宮野原	散布地	縄文～弥生時代		2—24		
2011	上押方第2遺跡（かみおしかた）	大字押方字本組	散布地	縄文～弥生時代	651	2—8	8.13.16.21.22	
2012	上押方第3遺跡	大字押方字本組・平野	散布地	縄文～弥生時代	652	2—9	8.13.16.21.22	
2013	押方長崎遺跡（おしかたながさき）	大字押方字長崎	散布地	縄文時代				
2014	岩上遺跡（いわがみ）	大字押方字岩上	散布地	縄文～弥生時代			8.13.22	
2015	河久保遺跡（かわくぼ）	大字押方字河久保	散布地	縄文時代				
2016	小渕遺跡（こぶち）	大字押方字小渕	散布地	縄文時代				
2017	柳原遺跡（やなぎばる）	大字押方字柳原	散布地	縄文～弥生時代				
2018	草津原遺跡（そうづばる）	大字押方字草津原	散布地	縄文～弥生時代				
2019	二上遺跡（ふたがみ）	大字押方字二上	経塚	平安時代			3	嘉承2年銘

向山地区　3001～3009

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
3001	高千穂54号墳（たかちほ）	大字向山字大久保	横穴	古墳時代	1017		6.7.9.16.22.31.33.35	
3002	稗ノ上遺跡（ひえのうえ）	大字向山字稗の上	散布地	縄文～弥生時代				
3003	中山城跡（なかやま）	大字向山字中山	城跡	中世	904	2—31	22	
3004	椎屋平遺跡（しいやびら）	大字向山字椎屋平	散布地	縄文～弥生時代				
3005	椎屋谷遺跡（しいやだに）	大字向山字椎屋谷	散布地	縄文～弥生時代				
3006	下鶴遺跡（しもづる）	大字向山字下鶴	散布地	縄文～弥生時代				
3007	石原遺跡（いしわら）	大字向山字石原	散布地	縄文～弥生時代				
3008	水ケ崎遺跡（すいがさき）	大字向山字水ケ崎	散布地	縄文～弥生時代		2—34	8	
3009	上ノ切遺跡（じょうのきり）	大字向山字上ノ切	散布地	縄文時代				

Ⅲ 主 要 遺 跡 概 説

1. 一本木横穴　(1004)

2. セベット遺跡　(1024)

3. 上原平遺跡　(1035)

4. 陣内遺跡　(1037)

5. 尾久保遺跡　(1064)

6. 押方遺跡　(2003～2012)

1. 一本木横穴（1004）　大字三田井字吾平原

一本木横穴は吾平原横穴群に属しており，昭和32年に発掘調査されている。[1] 現在は住宅地となっており，ほとんどの横穴が消滅している。

この横穴は，玄室の両側に一段高い屍床を造り出して，石枕を有する構造である。玄室の奥行2.2m，幅3m，高さ1.15mの規模である。南東側の屍床で，人骨1体と副葬品が確認された。副葬品としては，鉄刀1，刀子2，鉄鏃約70，勾玉3，管玉6，素環鏡板付轡1，鐘形杏葉4，雲珠4，飾金具2がある（図版5・6）。特に鉄地金銅張の鐘形杏葉は，長9.5cm，幅8.7cmで内側に何ら装飾を有しない。鋲は22～23個であり，タイプとしてNo.1とそれを逆転したNo.2・3・4に分けられる。鐘形杏葉は，県内では持田古墳群で出土しているだけであるが，鐘形杏葉のタイプとしては最も退化した形態である。屍床と石枕を有するタイプは，今狩（2屍床－2＋α石枕），河内（2－10），北平（2－2），南平55－1号（2－4＋α），同2号（2－6），吾平原（4－4）があり，一本木は2屍床・3石枕である。一本木横穴の時期は副葬品のセット関係から6世紀後半に比定される。

註

(1) 柳宏吉　「横穴古墳」（『宮崎県文化財調査報告書』第3輯）昭和33年

2. セベット遺跡（1024）　大字三田井字御塩井

セベット遺跡は，三田井中心街を通る国道218号線の道路沿い南側に位置する。道路を隔てた北側に高千穂神社があり，周囲は住宅地になっている。ここは，高千穂高校の実習地があったところで，小高い丘地が南から北に緩く傾斜している。遺跡は茶畑を中心に北西へ拡がっている。

昭和18年に石川恒太郎氏が当丘陵の斜面の断面で竪穴式住居を確認し，縄文期のものとされた。[1] 当遺跡出土の石器では図版8－3・5の石匙，8の十字形石器が知られている。

註

(1) 石川恒太郎　「宮崎県の考古学」昭和43年

3. 上原平遺跡（1035）　大字三田井字吾平原

上原平遺跡は，三田井中心街より北東へ約700m，高千穂盆地の中央部に当る。丘陵状を呈し，台地は開墾されほぼ平坦地を形成している。

図版４—1035は，若干凹気味の平坦な口唇部を有し，頸部に８本の沈線と５本の櫛描波状文を施し，それ以下の部位にはハケ目を施している。色調は黒褐色で，胎土には黒雲母片を含み，焼成は良好である。「高千穂・阿蘇」で図示された大字下野字谷出土の甕と同タイプであり，後期の弥生土器である。図版11—５は，現存長6.8cm，幅3.2cmの石剣のきっ先部分である。石剣の県内出土例としては，大淀川床（宮崎市）・持田中尾遺跡（児湯郡高鍋町）などがある。

4. 陣内遺跡（1037）　大字三田井字車迫　　昭和51年３月26日県指定

陣内遺跡は，三田井中心街から北にのぼること約１km，五ケ瀬川支流が開析した小台地の北斜面にある。これまでの調査では，石棒・土偶・板状土製品・自然遺物をはじめ，縄文後晩期に属する土器類が大量に出土している。今回の調査では，陣内遺跡の西側の台地上に位置する陣内第２遺跡の周辺東西約150m，南北約250mの範囲で遺物が採集された。

乙益重隆氏は後晩期の土器を６類[1]に，鈴木重治氏は早期から晩期の土器を10類[2]に分類された。図版１の1038—１～３は，陣内第２遺跡出土である。1038—２は，磨消縄文の後に３本の沈線を施した波状口縁で西平式に相当する。図版９の１～４は陣内遺跡出土である。１・２は鈴木氏の第６類，３は第７類に相当する。図版10の１～９は陣内第２遺跡出土である。１の石錐は，「陣内遺跡」の報告書に掲載されている。２～７は装身具である。十字形石器は当遺跡以外ではセベット遺跡があり，日之影町でも出土している。

陣内遺跡及び陣内第２遺跡は，当地域の縄文後晩期における中心的な集落と考えられる。

註

(1) 乙益重隆　「高千穂の先史文化」（『高千穂・阿蘇』）昭和35年

(2) 鈴木重治・賀川光夫　「陣内遺跡」（『日向遺跡総合調査報告』第二輯）昭和37年

5. 尾久保遺跡（1065）　大字三田井字尾久保

尾久保遺跡は三田井から東へ約4㎞，県道緒方・高千穂線沿いの南側に伸びる斜面に位置する。ここは，戦前馬産奨励のため，幼駒運動場として造成されたところで，現在も開墾された台地の周囲に馬場が残っている。

当遺跡出土の打製石鏃（図版4—1065）は，姫島産の黒曜石製で幅1.4㎝，長さ1.8㎝の凹基式である。磨製石鏃（図版4—1065）は，切っ先が折れており，幅1.7㎝，現存長3.5㎝の長手の無茎式である。無茎磨製石鏃は町内において10本以上確認されている。刻目を口唇部と突帯に施した口縁部片（図版4—1065）は，器面は横方向のハケ目の後，ナデを施している。

6. 押方遺跡（2003～2012）　大字押方字東平

押方遺跡は三田井より西に約3㎞，高千穂峡にかかる高千穂大橋を渡る国道218号線沿いの北側の低平な山麓一帯にある。この一帯は小谷の開析により，複雑な地形を示している。谷沿いの斜面は開田され，残された小台地上は住宅地や畑地になっている。遺跡はこの残された台地上，あるいは谷に向い南面する緩斜面数ヶ所に存在する。又，横穴墓も多く，昭和55年に南平横穴墓を発掘調査している。

上押方第1遺跡では，縄文後期の鐘ヶ崎式，第2遺跡では押型文，第3遺跡の弥生中期の須久式の丹塗磨研土器，第4遺跡では弥生後期の壺が確認されている。

図版1—2011—1～6は，上押方第2遺跡出土である。5は，磨消縄文を沈線で区画する文様を有する縄文後期の土器である。

図版1・2—2004—1～18は，東平遺跡出土である。押型文としては，楕円押型文（1・4・5・7・12），山形押型文（6・9）がある。特に12は，表面が粗大楕円文に対して裏面が斜原体条痕の凹線を施しており，所謂「田村式」に属する。17は，貝殻条痕文を施している。13は，黒色磨研の口縁部で後期に属する。

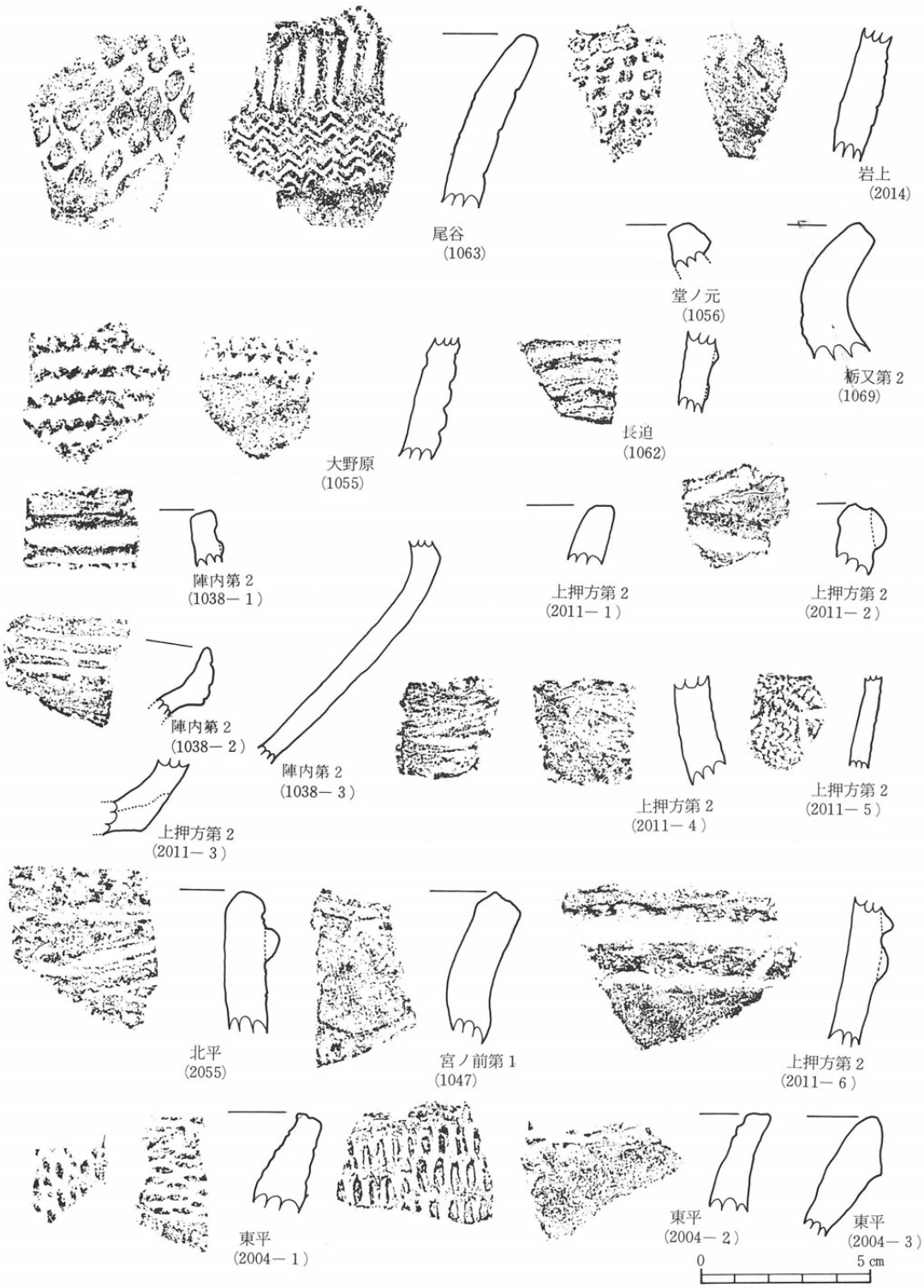
Ⅳ　高千穂町関連文献目録

1. 川口武定「従征日記」巻4　明治11年
2. 喜田貞吉「日向国史　上巻」史談出版社　昭和4年12月
3. 藤寺非宝「高千穂特別記録文献資料」昭和14年7月
4. 石川恒太郎「日向国岩戸村の祭祀遺跡について」
   （『考古学雑誌』第34巻第3号）昭和19年
5. 上代日向研究所「日向上代遺跡遺物地名表」昭和19年
6. 「日向古墳地名表」
   （『日向遺跡調査報告書』第1輯）昭和27年3月
7. 小手川善次郎「西臼杵郡高千穂町古墳調査書」昭和31年
8. 田中熊雄「宮崎県縄文弥生期考古遺物地名録」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第2輯）昭和32年3月
9. 柳宏吉「横穴古墳（高千穂町）」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第3輯）昭和33年3月
10. 柳宏吉「陣内縄文後・晩期遺跡（高千穂町）」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第3輯）昭和33年3月
11. 乙益重隆「高千穂の先史文化」
   （『高千穂阿蘇』）神道文化会昭和35年12月
12. 吉田章一郎「高千穂の原史文化」
   （『高千穂阿蘇』）神道文化会　昭和35年12月
13. 宮崎県教育委員会「陣内遺跡」
   （『日向遺跡総合調査報告』第2輯）昭和37年3月
14. 賀川光夫「九州の縄文時代石刀・石剣（2）」
   （『九州考古学』14）昭和37年
15. 浜田耕作・梅原末治「三田井の遺跡」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第10集）昭和40年3月
16. 石川恒太郎「宮崎県の考古学」吉川弘文館　昭和43年4月
17. 石川恒太郎「高千穂町吾平原横穴古墳調査報告」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第14集）昭和44年3月
18. 石川恒太郎「西臼杵郡高千穂町横穴古墳調査報告」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第16集）昭和47年3月
19. 石川恒太郎「西臼杵郡高千穂町奥鶴の箱式石棺調査報告」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第16集）昭和47年3月
20. 石川恒太郎「高千穂町田原字染野平横穴古墳調査報告」
   （『宮崎県文化財調査報告書』第16集）昭和47年3月
21. 沢　皇臣「宮崎県西臼杵郡高千穂町押方神社周辺の遺跡」
   （『九州考古学』45）昭和47年
22. 高千穂町「高千穂町史」昭和48年

23. 曽我部長良「日向の横穴」昭和50年10月
24. 文化庁「全国遺跡地図　宮崎県」昭和52年３月
25. 高千穂町教育委員会「薄糸平遺跡」昭和53年３月
26. 北郷泰道「薄糸平遺跡出土弥生式土器・再論」
（『宮崎考古』第４号）昭和53年９月
27. 石川恒太郎・内藤芳篤「丸山石棺群発掘調査」
（『宮崎県文化財調査報告書』第21集）昭和54年３月
28. 石川恒太郎「郷土史事典　宮崎県」昌平社　昭和55年
29. 北郷泰道・田尻隆介「南平横穴墓群発掘調査」
（『宮崎県文化財調査報告書』第23集）昭和56年３月
30. 本村豪章「古墳時代の基礎研究稿―資料篇(1)―」
（『東京国立博物館紀要』第16号）昭和56年
31. 佐藤軍市「古墳調査書」
32. 沢　武人「高千穂町上田原横穴古墳調査報告」昭和44年
33. 高千穂町教育委員会「高千穂町横穴古墳調査台帳」
昭和49年６月調査作成
34. 高千穂町教育委員会「高千穂町埋蔵文化財包蔵地調査台帳」
昭和52年12月調査作成
35. 高千穂町教育委員会「高千穂町古墳管理台帳」
昭和55年５月調査作成
36. 中村徳五郎「日本開闢史」明治42年
37. 北郷泰道「祖母・傾山系山岳地域論序説」（『考古学研究』第25巻第３号）昭和53年

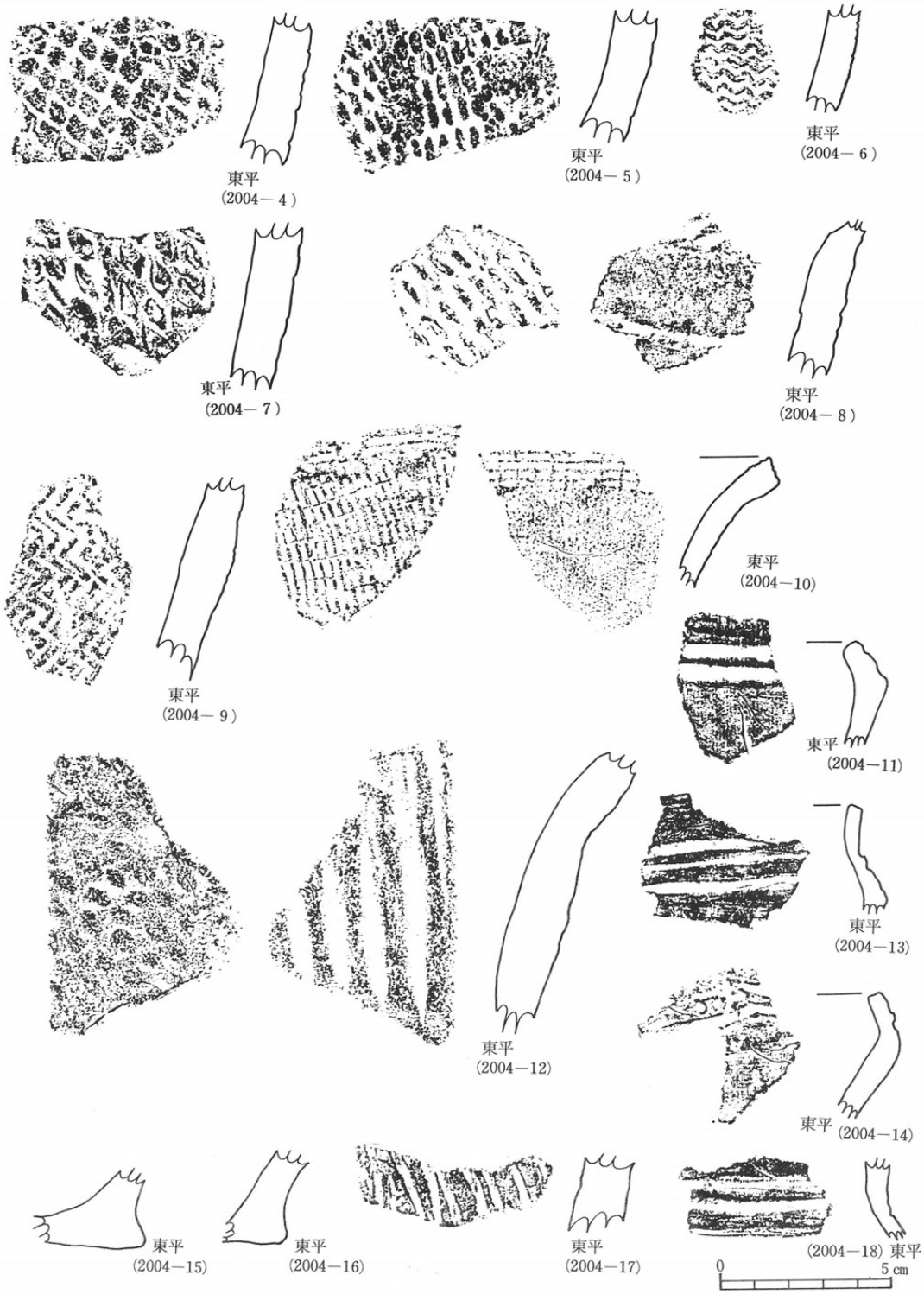
図　　版

図版 1


岩上
(2014)
尾谷
(1063)
堂ノ元
(1056)
栃又第 2
(1069)
長迫
(1062)
大野原
(1055)
陣内第 2
(1038－1)
上押方第 2
(2011－1)
上押方第 2
(2011－2)
陣内第 2
(1038－2)
陣内第 2
(1038－3)
上押方第 2
(2011－3)
上押方第 2
(2011－4)
上押方第 2
(2011－5)
北平
(2055)
宮ノ前第 1
(1047)
上押方第 2
(2011－6)
東平
(2004－1)
東平
(2004－2)
東平
(2004－3)
0
5 cm

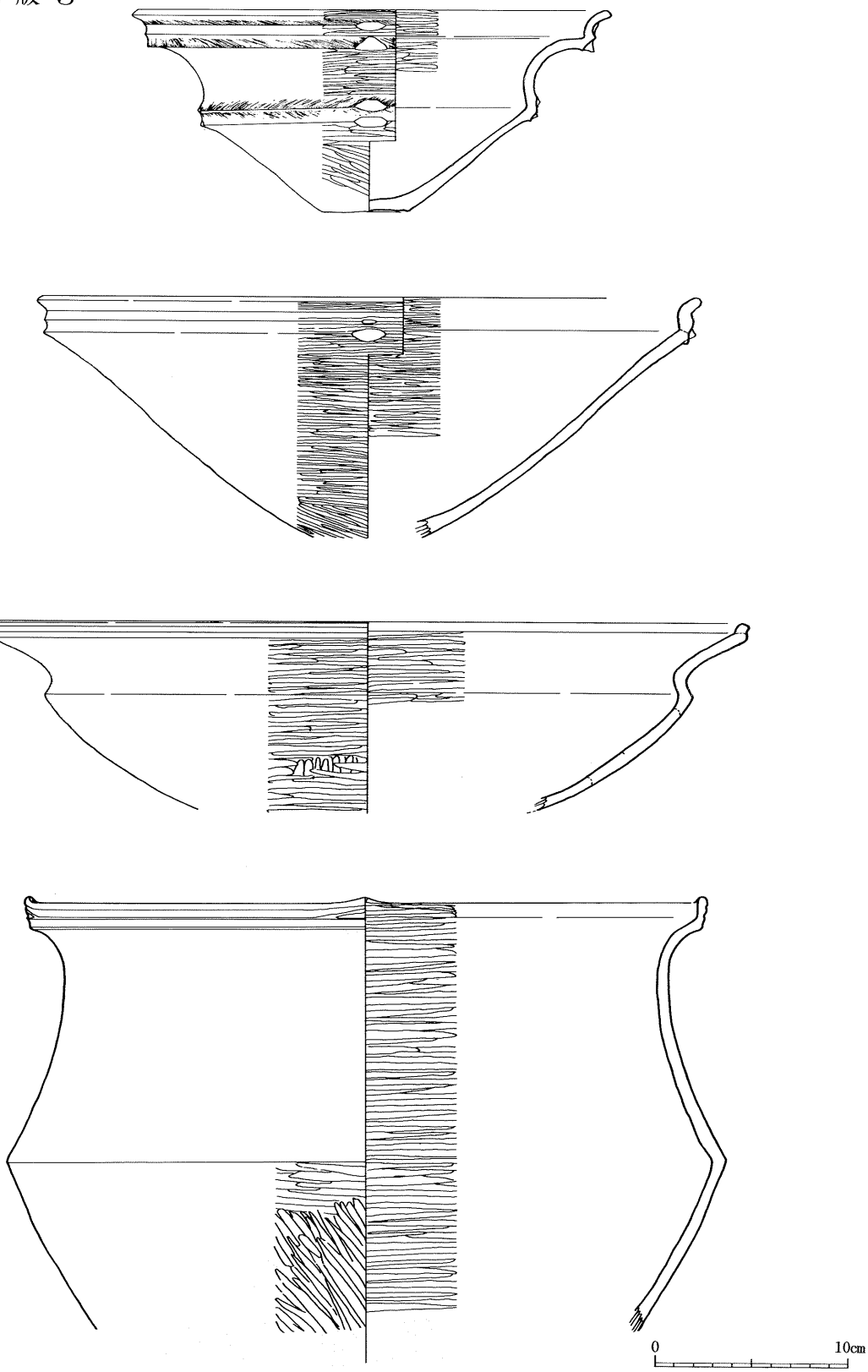
縄 文 土 器 （I）

図版 2


東平
(2004－4)
東平
(2004－5)
東平
(2004－6)
東平
(2004－7)
東平
(2004－8)
東平
(2004－9)
東平
(2004－10)
東平
(2004－11)
東平
(2004－12)
東平
(2004－13)
東平
(2004－14)
東平
(2004－15)
東平
(2004－16)
東平
(2004－17)
(2004－18) 東平
0
5 cm

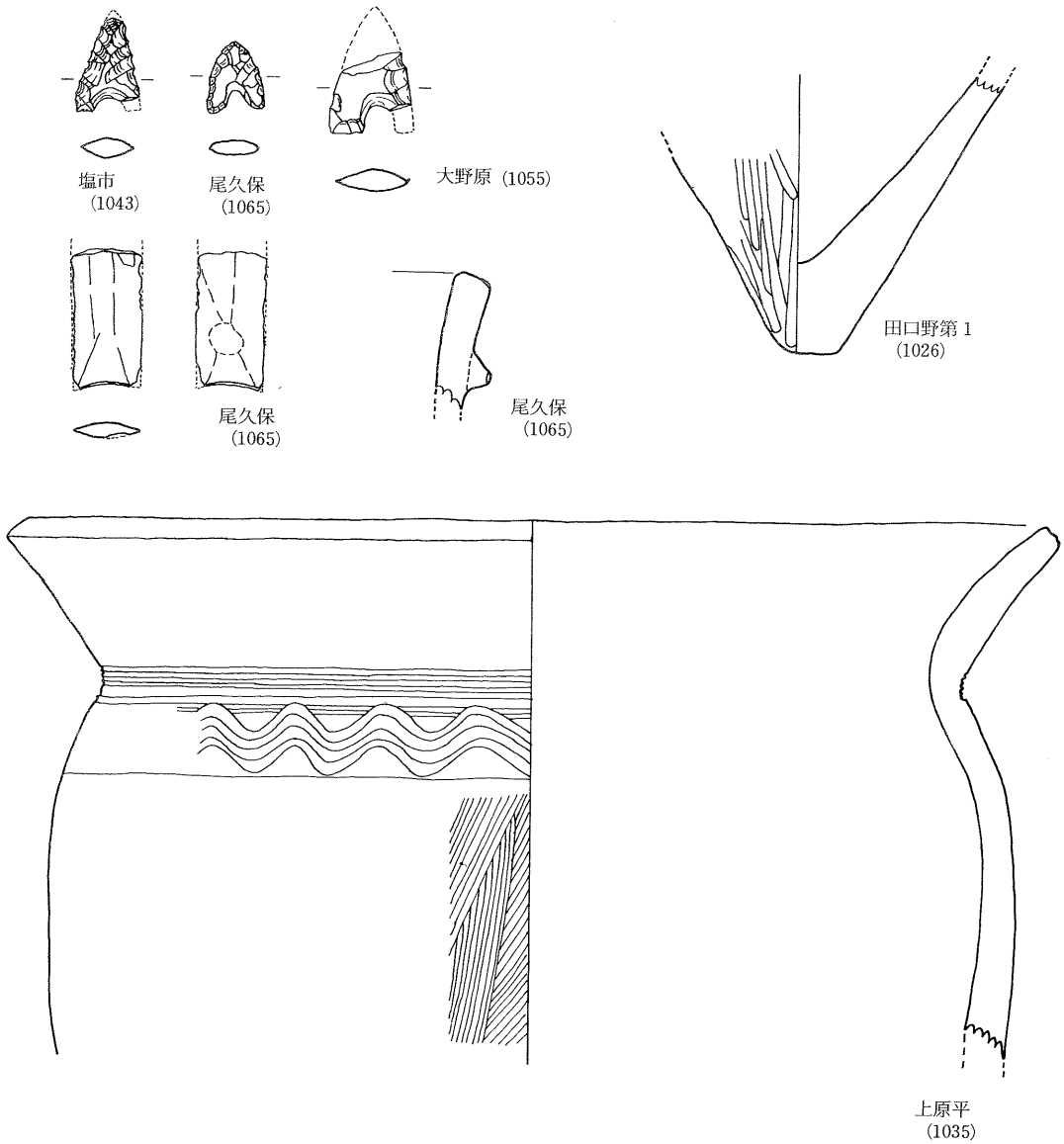
縄 文 土 器 (Ⅱ)

図版 3



陣内遺跡出土縄文土器

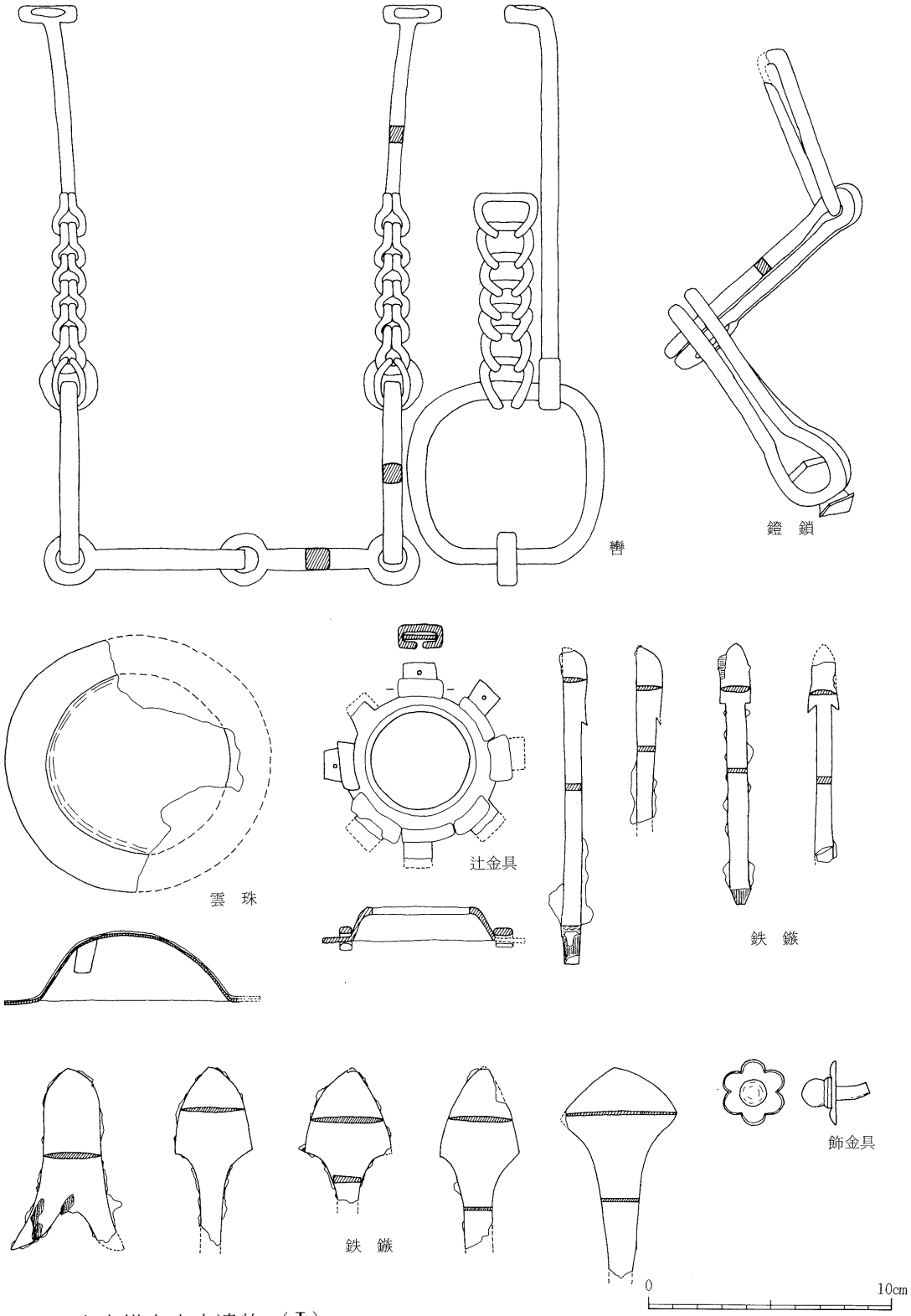
図版 4



打製石鏃・磨製石鏃・弥生土器

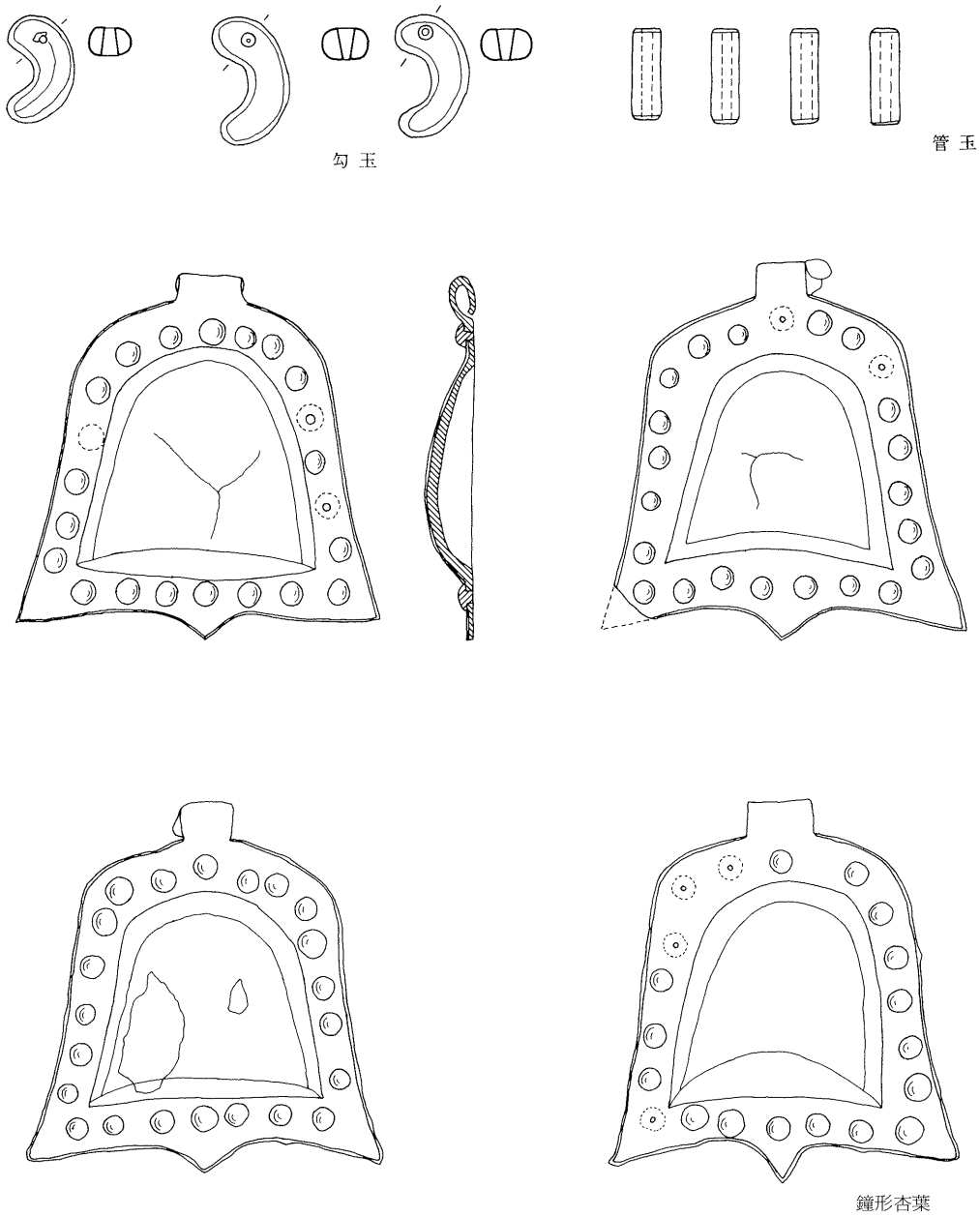
0 5 cm

図版 5



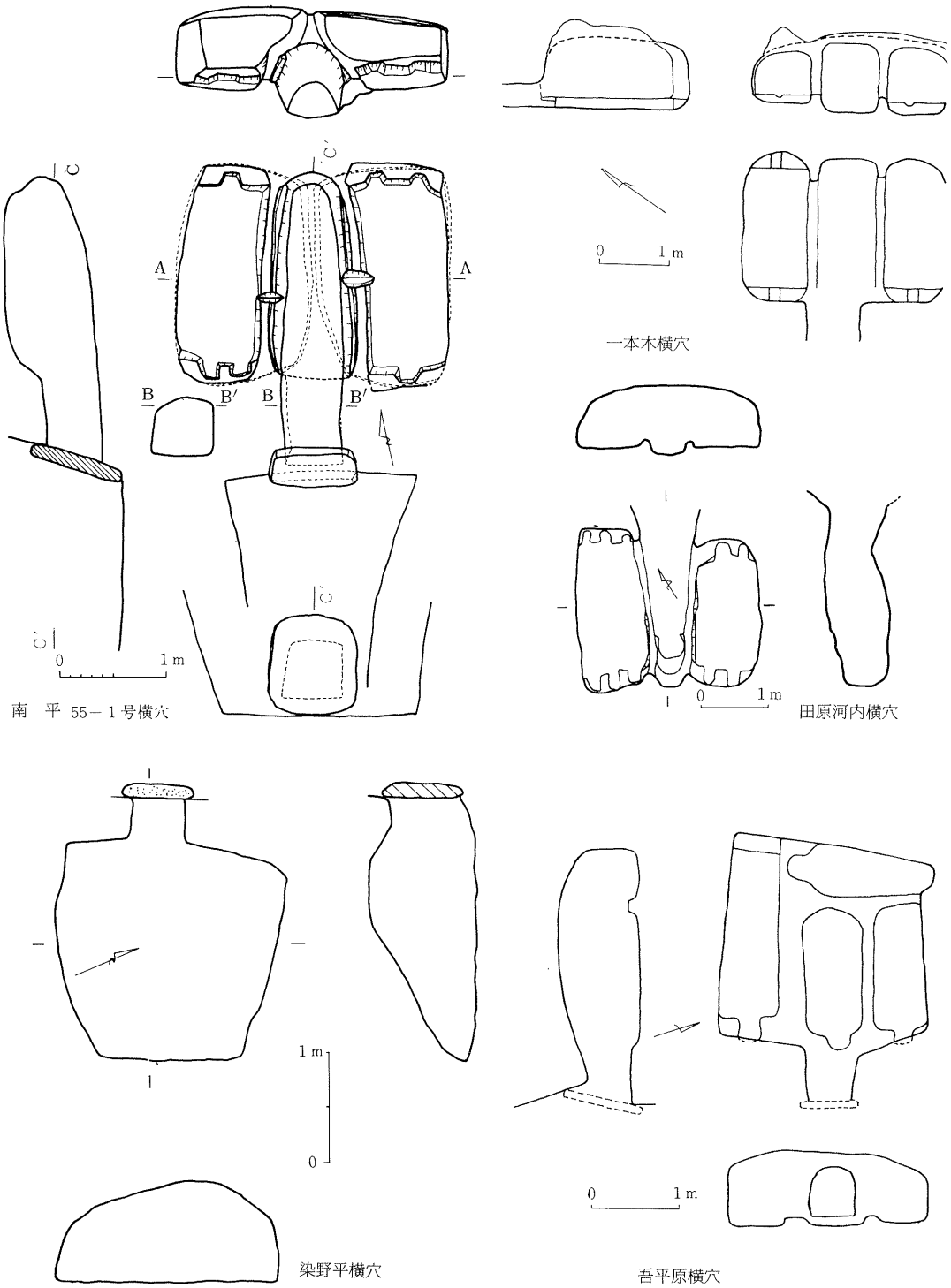
一本木横穴出土遺物（Ⅰ）

図 版 6



一本木横穴出土遺物（Ⅱ）

図 版 7



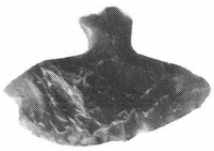
高千穂町内横穴集成図（縮尺不同）

図版 8

1

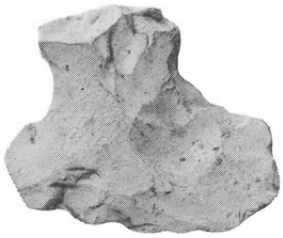
2

3

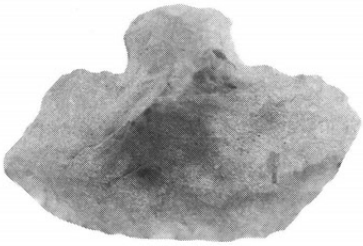


4

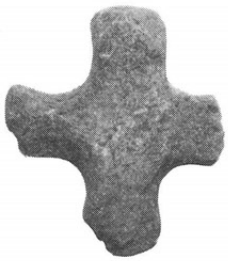
5



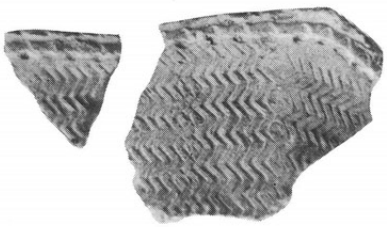
6



7



8

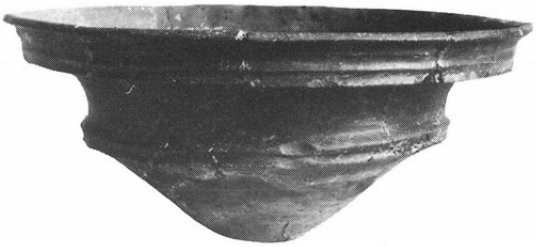


9

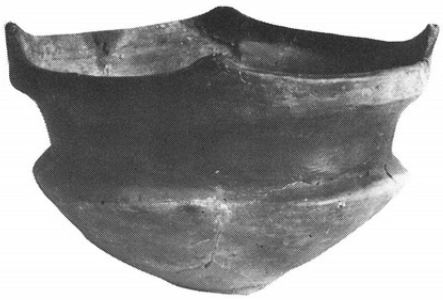
打製石器・縄文土器

1．石　鏃　梅ノ木谷遺跡（1045）長さ 4.5cm
2．　　稗ノ上遺跡（3002）長さ 5.0cm
3．石　匙　セベット遺跡（1024）長さ 4.0cm
4．石　匙　稗ノ上遺跡（3002）長さ 4.9cm
5．石　匙　セベット遺跡（1024）長さ 4.0cm
6．石　匙　上原平遺跡（1035）長さ 7.8cm
7．石　匙　柳原遺跡（2017）長さ 8.6cm
8．十字形石器　セベット遺跡（1024）長さ 9.0cm
9．押形文土器　稗ノ上遺跡（3002）

図版 9

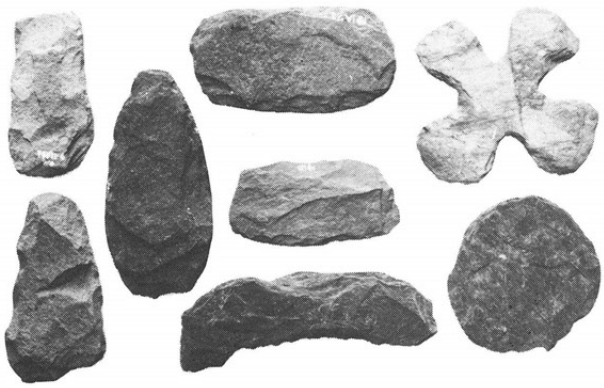


1



2

3



4

陣内遺跡出土品

1．縄文土器　器高 10.5cm
2．縄文土器　器高 11.0cm
3．縄文土器　器高 22.5cm
4．十字形石器他　長さ 11.5cm

（宮崎県総合博物館蔵）

図 版 10

1

2

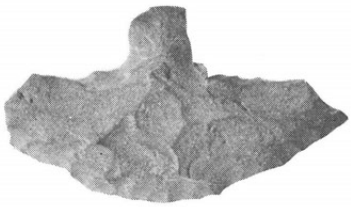
3

4

5

6

7



8

9

陣内第２遺跡出土遺物(1038)

1.	石　　錐	長さ 6.4cm
2.	小　　玉	直径 0.8cm
3.	装 身 具	長さ 2.0cm
4.	装 身 具	長さ 2.5cm
5.	勾　　玉	長さ 3.0cm
6.	勾　　玉	長さ 3.8cm
7.	ペンダント	長さ 2.5cm
8.	石　　匙	長さ 5.4cm
9.		長さ 9.0cm

図 版 11

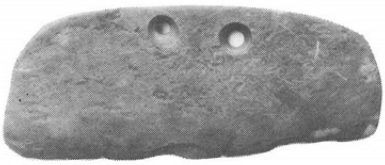
1

2

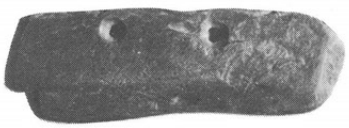
3

4

5



6



8

7

9

10

磨製石器・弥生土器

1．磨製石鏃　田口野第1遺跡（1026）長さ 4.5cm
2．磨製石鏃　田口野第1遺跡（1026）長さ 6.0cm
3．磨製石鏃　町　　内　　長さ 4.5cm
4．磨製石鏃　町　　内　　長さ 7.4cm
5．石　　剣　上原平遺跡（1035）長さ 6.8cm
6．石庖丁　狭山遺跡（1021）長さ 9.6cm
7．石庖丁　上原平遺跡（1035）長さ10.2cm
8．石庖丁　西原遺跡（1053）長さ 8.0cm
9．石庖丁　町　　内　　長さ 6.7cm
10．弥生土器　上原遺跡（1072）

高千穂町遺跡詳細
分布調査報告書

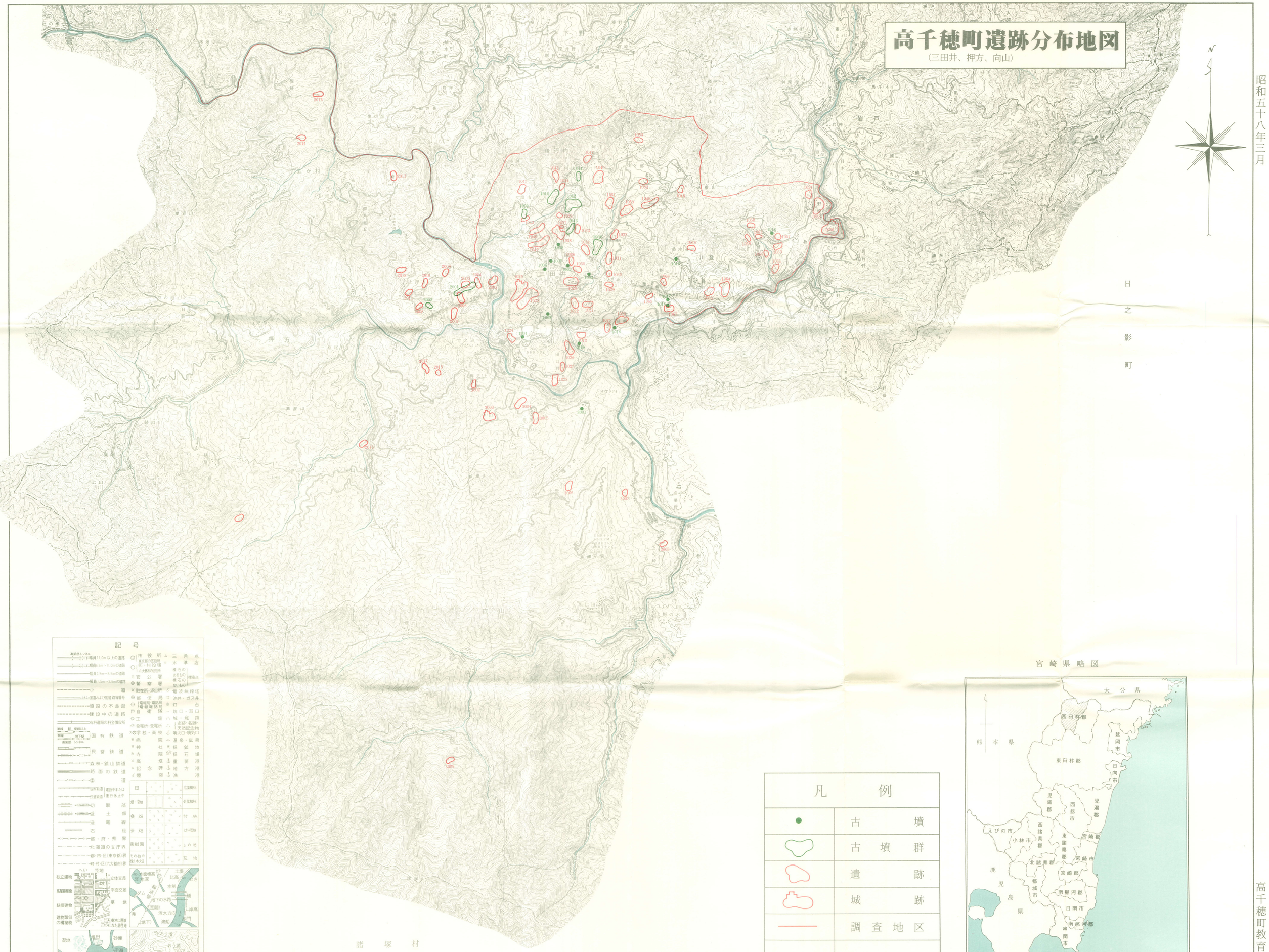
昭和58年3月31日

編集発行　宮崎県高千穂町教育委員会
高千穂町大字三田井13番
印　　刷　藤屋写真印刷株式会社

高千穂町遺跡分布地図

（三田井、押方、向山）

昭和五十八年三月



高千穂町教育委員会